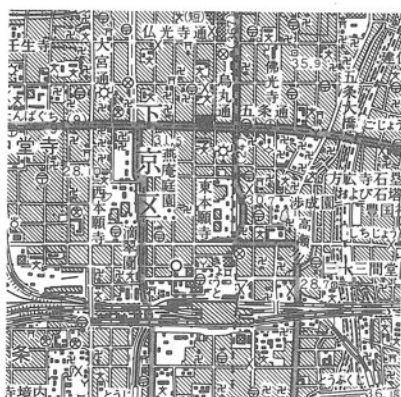


へいあんきょう
京都・平安京跡左京六条三坊六町

- 1 所在地 京都市下京区楊梅通新町東入上柳町
- 2 調査期間 一九九九年(平11) 二月～二〇〇〇年二月
- 3 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 菅田 薫・竜子正彦・吉本健吾
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部・京都東南部)

マンション建設に伴う立会調査である。調査地は平安京左京六条三坊六町にあたる。平安時代中期、この町の北東部四分の一町に慶滋保胤の邸宅「池亭」があったとされ、調査地はその南西部に位置する。調査の結果、江戸時代の井戸・湿地状堆積を検出した。墨書木製品は湿地状堆積シルト層から、江戸時代前期の染付碗・鉢・施釉陶器碗(唐津)とともに出土した。

8 木簡の釈文・内容

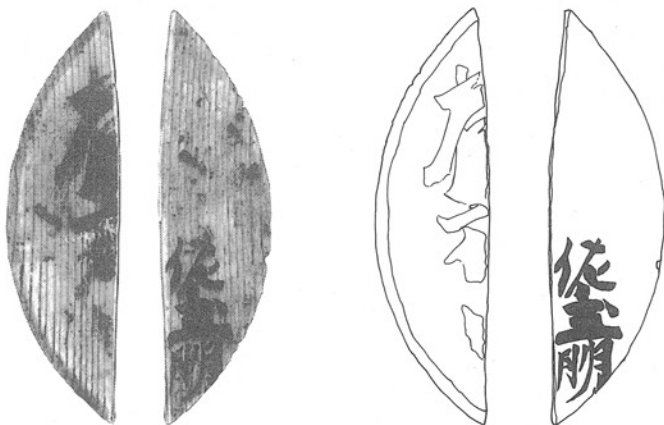
(1) 佐直明

・ □ □ □

木製容器の蓋とみられる。両面に墨書が認められるが判読できたのは片面のみで、人名であろうか。未判読の面は大きく墨痕が認められ、三字分が確認できた。

釈読にあたっては、京都産業大学の井上満郎氏、京都大学の西山良平氏・吉野秋二氏のご教示を受けた。

(菅田 薫)



(109) × (29) × 4 061